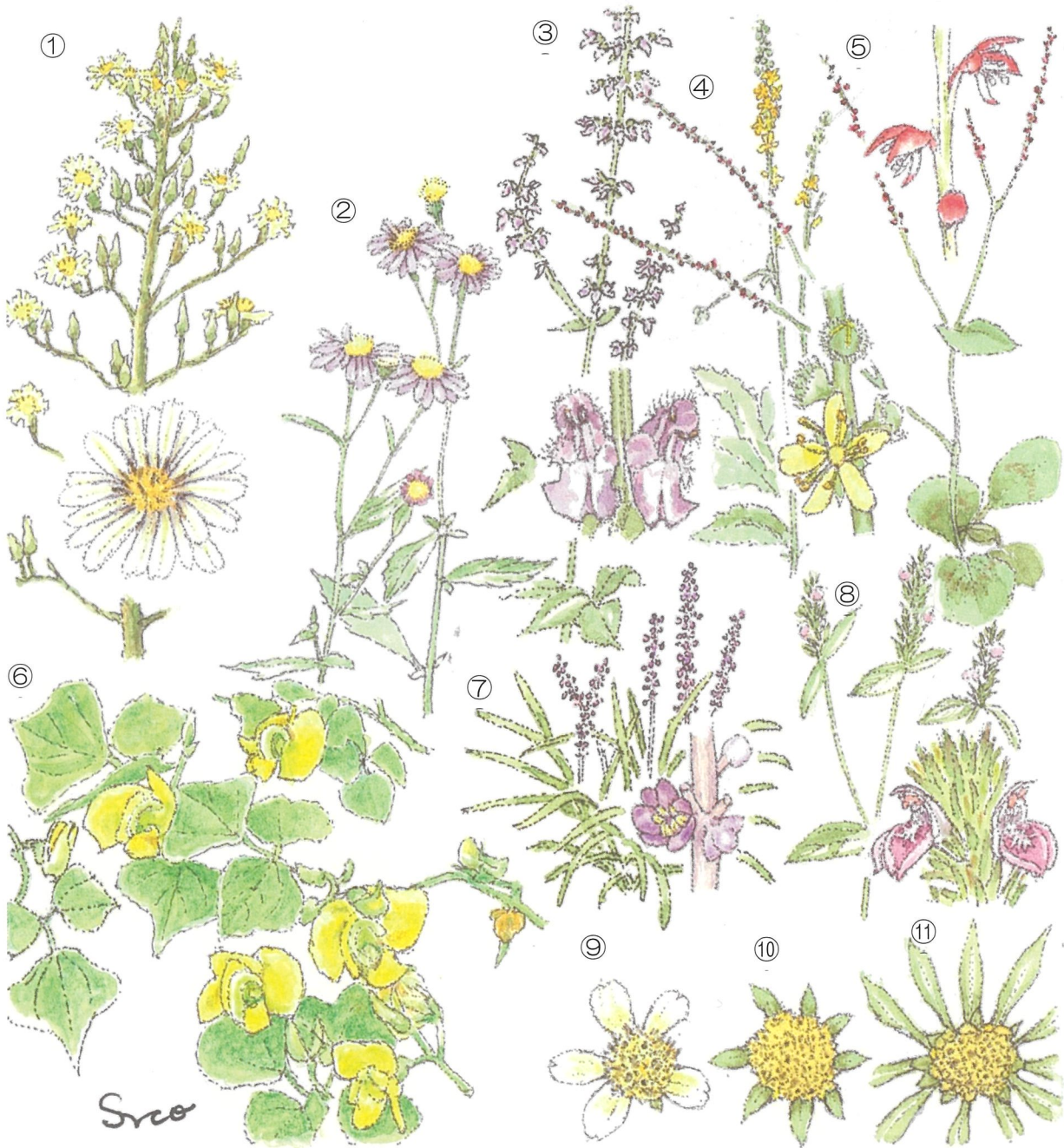


ほたるの里だより

八千代市ほたるの里づくり実行委員会 第72号 2023年10月



ほたるの里の花（秋）



- ①アキノノゲシ ②カントウヨメナ ③アキノタムラソウ ④キンミズヒキ ⑤ミズヒキ
⑥ノアズキ ⑦ヤブラン ⑧キツネノマゴ ⑨センダングサ
⑩コセンダングサ ⑪アメリカセンダングサ

※この里だよりは 令和5年度 ちば環境再生基金助成金（県民の活動）を頂き作成しました。

ほたるの里で考えてみよう SDGs・ESD ってなんだろう？ ～私たちがつくる里のミライ～

日時：2023年7月22日（土）9：00～11：30
参加者：15人 講師：森 繁 氏 スタッフ：9人
内容：ほたるの里とSDGsのつながりを、里にいる生き物を探して、調べて、周りの環境とのつながりなど、親子で楽しく体験しました。

- 生き物についてもっと探したり調べてみたい。
- 里には多くの生き物がいて、楽しかった。他《里のミライ》
- 受け継がれていて、生き物がたくさんいて皆が自然を楽しめる里になっている。他（アンケート）

おやこ生き物探検隊(夏の夜)

日時：2023年7月23日（日）参加者：35人
講師：山崎 保正氏、森 繁氏 スタッフ：8人
内容：道の駅から里までの生き物、里での生き物など探検しました。アブラゼミ、ニイニゼミの羽化や、ヘイケボタル、カブトムシなど多くの生き物が見つかりました。ホタルを初めて見た！と歓声があがりました！



ボーイスカウト第4団ビーバー隊・・・・・・・・・・ほたるの里の場の活用

日時：2023年7月9日（日）10：00～12：00 参加者：12人 里のスタッフ：2人
内容：里の生き物探し、ザリガニ釣り、水辺の生き物探検、里とSDGsとのつながり等、ビーバー隊（小学校低学年以下）が楽しめる体験活動でした。ザリガニ釣りは、集中力、じっと待つ・・・など良い体験の場にもなりました。ザリガニ釣りも少しずつうまくなっていました。

ほたるの里ヘイケボタル自生を目指して！

ホタル飛翔調査から

ほたるの里では毎年ホタルの飛翔調査をしています。令和5年は2年目のホタルの自生確認の途中の年でしたので、放流はしませんでした。結果は7匹のホタルの飛翔を確認しました。この7匹は前年265匹の幼虫放流で10匹のホタルが生まれましたが、この10匹を親として生まれたものか、265匹の幼虫の中から2年がかりでホタルになったのかは現時点では、不明です。引き続き来年も幼虫の放流無し（0匹）で、ホタルが出るか、出ないか実験します。

来年も幼虫の放流無し（0匹）で、飛翔が確認

されたら、実行委員会が目標としてきたホタルの自生が達成されることとなります。また、里の開設から26年かかっての快挙になり期待しているとこです。

開設当初の里の写真を見ると赤土が剥き出しで、植樹の木も細く小さく草もまばらで、とても多くの生物が棲める環境ではありませんでした。それが四半世紀を経てホタルが自生出来る環境の1歩手前までになったのは、試行錯誤の積み重ねと協力者、協力会社の賜物ではないかと思えます。（文責：深澤一郎 ホタルメイト）

幼虫放流数と成虫になった数

単位：匹

	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年
幼虫放流数、A	155	118	305	50	0	0	265	0
成虫数、B	7	8	11	9	3	0	10	7
比率 B/A %	4.5	6.7	3.6	18.0	-	-	3.7	-

今から 52 年前の昭和 46 年 11 月、小学校 4 年生の私は、我が家が八千代市村上に家を取得し東京都葛飾区から移住してきました。「生き物」が好きな私にとっては、村上周辺は自然に囲まれ毎日が探検みたいでした。

今回は、インパクトのある新川(村上橋周辺)について少し書いてみようとおもいます。

当時の村上橋は古く、道幅も狭いため自転車で渡る時は、後ろから車が来ないのを確認して、お尻を上げてダッシュでペダルを踏んで走り抜けていました。

村上橋周辺は田んぼで、田んぼに沿った道は曲がりくねり道幅も狭く、道沿いに立てられている電柱は根元を黒いコールタールで覆われた木の電柱でした。

村上橋のたもとには 2 軒のお店があり、簡単な釣り道具からパン、ジュース、たばこ、アイスのほか、日常の雑貨が売られ、日曜日や祭日となると、新川で釣り糸を垂れる家族連れや太公望たちで、お店周辺はいつも、にぎわっていました。もちろん今の新川の様相とは全く異なり、今の新川は護岸工事が行われコンクリートでしっかり土手は固定されていますが、当時は土を積み上げた土手で、村上橋のたもとには小舟を止めておく場所もありました。

アシも茂り水際に下りて所狭しと、釣り竿を並べたものでした。(隣の人と糸が絡まり「すみません！」が、時折聞こえてもきました)。

私が経験した新川には、コイ、フナ、モツゴ、バラタナゴ、ダボハゼ、ライギョ、イシガメ、

クサガメ、ウシガエル、タニシ、ドブガイ、テナガエビ、アメリカザリガニが確認でき、モツゴ、ダボハゼ、アメリカザリガニは釣りたくないのに面白いように釣れるので、子どもたちにとっては、楽しい時間を過ごすことができる場所でもあり、家族連れには最高の遊び場であったと思います。

釣り糸を垂らした水面のウキをじっと見つめていると、そのウキの上をオニヤンマ、ギンヤンマ、ウチワヤンマといった大型のトンボが行ったり来たり、時折ウキに止まったりしていました。

村上橋から下流方向と、宮内橋の近くには定置網が張られていて、底が平たい船が時折来ては網を引き揚げ、たくさんの小魚が網の中でキラキラ光っていた様子が思い出されます。

主に小鮒やモツゴだったそうで、つくだ煮の材料として捕られていたとか。小学校の社会勉強で、八千代市の職業別の資料に「漁業 2 人」と記載されていました。

今は新川の土手も整備され、川沿いにはサイクリングロードがきれいに伸び、きれいな街、住みやすい街へと変わり、東葉高速鉄道が開通し、昔田んぼだった村上駅周辺は、マンションやスーパーの大型店舗に変貌していきました。

私が子どもの頃、秋の土手にはたくさんの種類のコオロギの鳴き声が聞かれ、スズムシも当たり前のように鳴いていましたが、今では、そんな鳴き声を聞くことはなかなか難しくなったような気がします。





草刈りが主作業の季節



←ホタルブクロ

里からのお知らせ

★参加者募集！！ およこ生き物探検隊～トンボ池の中を見てみよう～

ほたるの里にはトンボ池があります。毎年11月になると、トンボ池のかい掘りをします。トンボ池にいる生き物を間近に見ることができる1年に1回のチャンスです！

日時：2023年11月18日（土） 11：00～12：00（受付：10：50）

場所：八千代市ほたるの里（米本4816）

参加費：100円/人（保険料） 募集人数：先着20名（親子10組程度）

参加申し込み開始：11月1日（水）

申し込みは、名前、学年、住所、電話番号をお知らせください。

申し込み先：八千代市 環境保全課 環境政策室

Tel：047-421-6767 担当：平本 井尻

◆市民活動フェスティバル

日時：2023年10月8日（日）10：00～16：00 場所：勝田台文化ホール

主催：社会福祉協議会推進センター

内容：市民活動団体などの活動を紹介する場でした。来場者は200名。

参加団体の交流の場としても活用されました。他には、勝田台中学校の吹奏楽部の演奏などもあり、地域の市民の来場者もありました。

◆エコメッセ動画配信（ほたるの里）

動画出展した「エコメッセ2023inちば」の公開が、10月14日（土）10時にスタートしました。配信は⇒<https://www.ecomesse.com/>

※配信は「エコメッセ2024inちば」開催前日までです。

◆ヒメコマツの生育調査 150cm（昨年より10cm成長しました！）

2016年からヒメコマツ系統保存サポーター調査に参加し、毎年10月1日前後に生育調査を行っています。移植時は、41cm、50cmの内1本（41cm）が2022年5月の強風で折れ、現在は1本となりました。残る1本の2022年の樹高は140cmでした。

[編集後記] (広報部)

酷暑、酷暑の夏でした。高温、少雨で生き物・人間にも過酷な季節でした。気候変動が平常になりつつある影響を心配すると同時に私たちの暮らし方の変革が必要です。環境に優しい暮らし、進めましょう！！

[ほたるの里 連絡先]

八千代市ほたるの里づくり実行委員会事務局

〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5 八千代市環境政策室内

Tel：047-421-6767

E-mail：kankyout1@city.yachiyo.chiba.jp

HP：<https://www.city.yachiyo.lg.jp/soshiki/40/3728.html>

【編集】広報部会・事務局